

大津町議会 文教厚生常任委員会行政調査

氏名 田代 元気

視察研修名：大津町議会文教厚生常任委員会行政調査

視 察 先：佐賀県基山町、福岡県久留米市、長崎県長与町、佐賀県武雄市

期 日：令和6年7月29日（月）～30日（火）

研修テーマ：基山町「基山っこみらい館の取組について」

久留米市「学校給食共同調理場の整備及び運営の状況について」

長与町「部活動の地域移行の取組について」

武雄市「武雄市図書館見学」

研修報告 意見・感想

① 基山っこみらい館について、基山町役場において整備の概要について説明を受け、その後、庁舎に隣接する基山っこみらい館を視察しました。

この施設は、子育て世帯の就労支援施設の整備も行うことで、国の地方創生拠点整備交付金を活用し整備されました。

施設内には、公立の基山保育園のほか、子育て支援センターや子育て世帯なら誰でも利用可能な会議室や交流施設もあり、安心して子育てができるよう環境も整えていました。

本町でも整備を目指す子育て支援拠点ですが、基山町のように交付金をうまく活用した施設整備は大変参考になりました。

また保護者にとっても保育園と同じ施設内に子育てに関する相談できる環境が整っていること、他の保護者と交流できるスペースがあることは、安心して子育てができる環境が整備されていると感じました。



② 久留米市中央学校給食共同調理場の整備について、施設の見学後、次号の概要について説明を受けました。

久留米市では、平成16年に民間調理場方式による全中学校での給食の実施について市議会からの提言を受け、整備事業を開始しました。

その間、生徒・保護者・教職員へのアンケートの実施、先進地調査や実施方式の検討を経て、PFI方式による施設の整備、運営を決定しました。久留米市では、小学校では自校式や一部地区では、センター方式で給食を提供しているが、

大規模な給食センターの建設、運営の経験がないこともPFIで事業を決定したとのことでした。このセンターでは、1日最大8,000食の給食を提供でき、現在は約7,000食を支柱の中学校14校に提供しておられます。

また、献立を2種類にすることで、施設や面積のコスト削減や、食材の確保にも繋がるとのことでした。

PFIで事業を行うことで、コスト削減のほかにも、センターの運営や維持管理などの面で、民間のノウハウを最大限活かせる事業だと感じました。

本町においても、現在の給食センターのキャパは、ほぼ限界にきており、今回の研修も活かしながら、取り組んでいかなければならないと思いました。



- ③ 長与町の中学校休日部活動の地域移行については、令和2年9月に文科省が休日の部活動を地域に行こうする指針が示された直後から取り組みを進め、長与スポーツクラブ（NSC）が受け皿になり、事業を開始しました。

教育長の金崎良一氏にも研修に同席していただき、説明を受けましたが、金崎氏は町内3つの中学校で校長を歴任し、各学校の部活動の状況も把握されており、生徒や保護者のニーズにもしっかりと答えている印象を受けました。

また、生徒や保護者からも休日部活動については、より専門的な指導を受けられることや、町内の他校の生徒とも活動を共にすることで競争が生まれ、勝利至上主義ではないが、自らのレベルアップに繋がるなど喜びの声が大きいとのことでした。

費用についても、個人負担は月額3,000円で、就学援助を受けている家庭へは、2,000円の補助を行い、1,000円の負担で参加できるなど家庭の経済的負担も最低限に抑えられていると感じました。

特に印象に残ったことでは、この地域移行は、メリットしかないとのこと、説明を受ける中で、本当に素晴らしい取り組みをされていると感じました。

本町でも、部活動の地域移行は進めなければならない取り組みであるため、子どもを真ん中に考え、長与町のように事業を進めて行けるよう今回の研修を活かしたいと思います。

- ④ 武雄市図書館は、視察だけでしたが、若い方から高齢の方まで本当に多くの方が訪れており、読書をする場所ではなく、コミュニティの場になっていると感じました。

本町でも図書館では新たな取り組みを行っていますが、よりよい施設になるよう、今回の視察を活かし提言していきたいと思います。

